



三ツ森(乗鞍岳南部 開田村) (積雪期)
ピークハント／縦走 / 槍・穂高・乗鞍)

by
gekiyabu 

日程：

2012年03月26日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

天候：

晴れのち雪

地図：



標高グラフ：

コースタイム：

6:58 藤沢集落--7:05 藤沢川--7:46 1450m峰を巻く--7:50 1380m鞍部--8:07 三ツ森 8:15--8:21 1380m鞍部--8:41 藤沢川--8:48 藤沢集落

コース状況／その他周辺情報：

- ・登山道なし
- ・登山ポストなし
- ・尾根上は危険個所なし
- ・積雪のため正確な藪の状況は不明だが、たぶん笹は薄く無雪期でも登れそう
- ・積雪は新雪が15cm程度、その下の雪は場所によって異なり0～30cm程度
- ・山頂は樹林で展望なし

 写真:



藤沢集落南の公衆トイレ前に駐車



公衆トイレ前から三ッ森方面を見る



この道をアプローチに使用(帰路に撮影)



車道の雪は意外に沈む(帰路に撮影)



車道を外れ藤沢側へ向かう



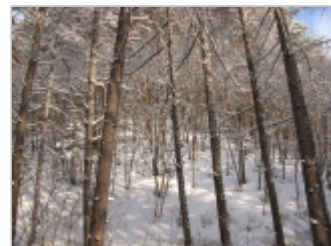
カモシカの足跡



藤沢川渡渉箇所。場所を選べば容易に渡れる



尾根に向かう



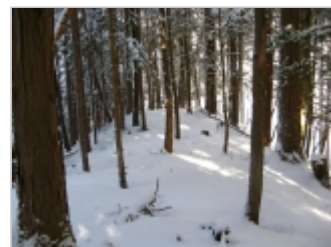
尾根末端。結構傾斜がきつい



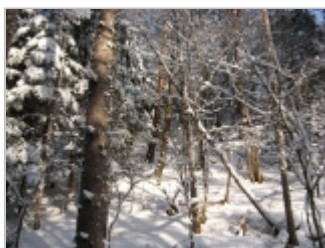
赤松が混じる



新雪は5cmくらい



1360m肩



再び登り



葉っぱだけでなく幹も着雪



1450m峰付近の稜線は幼

木がうるさく西を巻いた



1450m峰西側直下



1450m峰からの下り



1430m鞍部



1430m鞍部からの登り



樹林の背は高く藪はない



自分の足跡。新雪はこのくらい



少し踏み抜きはあるがまあ快適な部類



植林+自然林



間もなく山頂



三ッ森山頂



三ッ森山頂のテープ。南斜面にも同じテープがあったので林業用か



掘り出した4等三角点



三ッ森山頂の境界標識

このくらいしか笹は見られ
なかった

1430m鞍部から西の沢に
入る



標高1320m付近で沢と両
岸が険しくなる



右岸に移り下る



傾斜が無くなり藤沢川に向
かう



往路の自分の足跡に合流

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

登山道は無く、山頂南東側の藤沢集落より南東尾根を登り、下りはその尾根の西側の谷を下った。藤沢川渡渉が心配だったが水量少なく川幅狭く、場所を選べば容易に渡れる。尾根上は赤松、唐松、檜の植林で山頂付近以外は笹は無いと思われる(積雪のため山頂付近の藪は不明)。少なくとも1450m峰までは藪皆無。たぶん無雪期の方が簡単に登れる。山頂は樹林で展望は無い。沢は一部険しい場所があり高巻きの必要があり、尾根を往復するのが無難。積雪は集落内と尾根下部で数cm。新雪が降っていないければ雪は無かったと思う。山頂部でも非常に軽い新雪が15cm程度で三角点を簡単に掘りだせた。アイゼン、ワカンを持っていったが使わなかった。

三ッ森山は鎌ヶ峰から南西に延びる尾根の末端付近にあり、地形図には破線は無いがマイナーな山なので仕方が無いだろう。ネットで開田村の三ッ森で検索をかけたが1件も引っ掛からなかった。標高は1500m程度なので夏は暑すぎ藪も濃いであろうから冬枯れの時期に登るのが良い。地域的、標高的に考えると笹があるか微妙なところであり安全を考えれば残雪期が良いが、雪が多い場所ではないので雪が安定する頃には雪が消えている可能性もある。今週末は冬型が強まって日本海側は吹雪、太平洋側は晴れだが花粉のピーク、というわけでその中間のエリアに足を伸ばすことにした。ここでも雪が降るか微妙なところだ。

早朝は快晴であったが昨日降雪があったようで開田村は真っ白、道路も真っ白で注意深く運転し、藤沢集落に到着。狭い集落内に車を置く場所は無いただろうと南側の外れにある神社横の真新しい公衆トイレ(冬季閉鎖中)前に車を置いて歩きだした。

集落に入る直前で左の轍が無い車道と思われる筋に入り、小動物の足跡を追うように奥に入っていく。日当たりがいい平坦地で雪が一番溶けやすいと思えたが、2,3cmの新雪の下にはスカスカの古い雪があってズボズボと踏み抜きワカンを使いたくなるくらいだった。しかしこれから藤沢川の渡渉が待ち構えており、ここでワカンを付けてもすぐ脱ぐ羽目になるので我慢して歩く。快晴とはいかないが晴れて尾根の様子が良く見え、取り付くべき尾根もすぐに分かり、先週のようなへまはしなくて済みそうだ。

尾根が西に接近したところで雪に埋もれた車道を外れて藤沢川へと下る。唐松植林の中にはカモシカの足跡が縦横無尽に付いていた。問題の藤沢川は思ったほど大きな川ではなく、場所を選べば簡単に対岸に渡れる程度であり大助かり。

平坦な対岸をボコボコ踏み抜きながら進み、尾根取り付きに到達すると雪に埋もれた車道らしき平坦な構造物が横切っていた。もしかしたら私が渡渉した個所より上流に橋があるかも？ 目の前の尾根はなかなか急だが、植生は唐松植林帯で灌木数は少なく、木の隙間を縫って上っていく。ただ、唐松だけでなく赤松も混じっており、その葉にはたっぷりの新雪が付いていて風で盛大に落下して頭から雪をかぶるのでゴアを着てフードを被った。南向きの尾根だからだろうか、平地より積雪は少なく5cm程度のサラサラの新雪が積もっているだけでその下は凍った地面だった。凍ってはいても土が硬くなっただけで基本は滑らないが、雪に隠れて木の根、落ちた枝が存在するが、その上に乗ると思いきり滑る。

徐々に赤松が優勢となるが、新雪で真っ白で葉が茂っているのか松なのか分からないほどだ。標高1360mで傾斜が緩んで肩が登場、地形図通りの地形でルートに間違いがないことが確認できた。その先は赤松もあるが檜が優勢となり、葉が増えて少し暗くなるし、頭上から落ちてくる雪の量も増えてきた。なおも登って高度を上げ、1450m峰が近づくと尾根上は檜や松の幼木が多くなり、乾いていればさほど気にせず突っ込むのだが、今は新雪がたっぷり積もってここに突っ込むと全身雪まみれになってしまうため、尾根西側直下を巻いた。下りにかかると背の高い唐松とシラビソ樹林に変わり歩きやすくなった。

1430m鞍部から登りにかかると落葉した明るい自然林に変わる。積雪は徐々に増えてきているが新雪は10~15cm程で、その下にイマイチ締まりが悪い古い雪が残っている。深さは30cm程度だろうか？ たぶん先週降った雪ではなかろうか。僅かに笹が顔を出した部分はあるが、ほんの一部だけであり、この山は笹が薄いらしい。

木の隙間をジグザグに縫って登り切ると山頂に到着。地形図を見る限り、山頂に達しないとピークは存在しない。高度計の表示もほぼ標高通りだ。周囲は樹林で展望なし。いつの間にか雪が舞い始めてきた。太陽の輪郭は見えているので本格的な雪雲ではなく北側から流されてきた雪雲なのだろう。天候は回復すると思ったのだが残念。山頂標識は皆無でピンクリボンと境界標識があるだけであった。

三角点があるはずなので探索開始。山頂近辺は深さ15cm程度の極軽い新雪だけで、足で簡単にどけられる。最高点付近から徐々に東に範囲を広げると4等三角点を発見。よかったあ。

下山は1450m峰を登り返すのが面倒なので、その西側の沢を下ってみよう。小さな山なので沢もさほど険しくないかもしれない。1430m鞍部から最初は広い沢だがやがて狭まって岩が出てくるようになり、濡れた岩、雪と凍結で沢を下るのは危険な状態となったため左岸沿いを下っていく。標高1320m付近から谷が険しくなり左岸斜面もきつくなったため右岸側に移動、檜植林の急斜面をどうにか横断して標高1270mになると谷が急激に広がって穏やかな緩斜面に変貌。積雪が増えて踏み抜きながら下っていく。小さな沢を横断し平坦地を藤沢川に向かって進むと往路の自分の足跡があった。

藤沢川は往路と同じ個所を渡渉、対岸の車道に上がって樹林から出ると集落は雪で煙っていた。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>